

第2回 第6次日野市特別支援教育推進計画策定委員会議事録

1. 日 時 令和4年8月23日（火） 午前10時
2. 場 所 旭が丘小学校 図書室
3. 出席委員 大西委員、小貫委員、山口委員、石川委員、比留間委員、黒澤委員、諸星委員、阿部委員、中田委員、高原委員、長崎委員、馬場委員、正留委員、宮崎委員
4. 事務局 萩原発達・教育支援課長、吉沢発達・教育支援課長補佐、木暮発達・教育支援係長、宮崎指導主事（特別支援教育担当）、福地主事（発達・教育支援課）
6. 傍聴者 なし
7. 議 事
 - (1) あいさつ
 - (2) 協議・意見交換
 - ① 特別支援学級保護者アンケート集計結果（速報）について【資料①】
 - ② 第6次日野市特別支援教育推進計画（案）について 【資料②】
 - (3) その他
8. 会議資料
 - (事前配布資料)
 - 【資料①】 特別支援学級保護者アンケート集計結果（速報）
 - 【資料②】 第6次日野市特別支援教育推進計画（案）
 - (当日配布資料)
 - ・ 計画策定における現状からみた課題についての私見（小貫委員より）
 - ・ (仮称) 子ども包括支援センター説明資料

【議事内容】

1 あいさつ

(山口委員)

皆様こんにちは。本日は本校遠いところ、また暑い中ご来校いただきましてありがとうございます。エアコンの効きが悪いようで、暑くて申し訳ありませんが、策定委員会の方よろし

くお願いいたします。今日はできれば素案の方を 4 章までご意見いただきながら進めていきたいと思っておりますのでご協力の方よろしくお願いいたします。

それではさっそく協議に入りたいと思っております。始めにアンケートの集計結果の方から事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

2 協議・意見交換

【特別支援学級保護者アンケート集計結果（速報）について】

（事務局）

事務局の福地より、特別支援学級等に関するアンケート調査集計結果の速報についてご報告させていただきます。

始めにお配りしている資料と、アンケートの実施方法についてご説明させていただきます。まず事前資料として資料①の他に、先ほども課長補佐よりお伝えしましたが、アンケートの自由記載で保護者の方に聞いたものについて特別支援学級保護者アンケート自由記載一覧をお配りしているかと思っております。別紙についてはメールでのみお配りしておりますので、資料 1 と合わせてご意見をいただければと思っております。また、推進計画の冊子内には、第 5 次同様、アンケート結果の一部と全体のまとめについて記載する予定になっております。そのため、今回いただいたご意見を基に、一部抜粋して掲載したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

アンケートの実施方法ですが、こちら第 5 次特別支援教育推進計画の策定の際に行ったアンケートでは、特別支援学級・通級指導教室・特別支援教室の 3 種類に分けて保護者の方にお配りしアンケートを実施いたしましたが、今回は学級の種別で分けずに、すべて統一のアンケートをお配りする形で実施しております。

また、配布と回収については、各学校の学級を通じて保護者の方に書面の調査案内を配布し、調査案内記載の QR コードまたは URL から回答を依頼しております。回答はすべて匿名でお集めしております。

それでは、アンケートの詳細についてご報告いたします。資料の①をご覧ください。始めに回答率についてご報告いたします。全部で 1047 通発送しましたところ、全体で 356 件の回答をいただきました。そのため回答率は 34.0%となっております。

次に回答の集計についてご報告いたします。まず①、現在のお子さんの学年をお答えくださいについては、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの集計結果となっております。

②、現在お子さんはどの特別支援学級に在籍しているかという問については、知的障害特別支援学級が 58 件、中学校自閉症情緒障害特別支援学級が 18 件、特別支援教室が 262 件、通級指導学級が 17 件、未回答が 1 件となっております。

続いて③、「現在お子様が在籍する特別支援学級を選んだ理由についてお答えください。」ですが、こちら複数回答可能でお答えいただいております。回答数が多かったも

のについては、本人の特性を踏まえた支援が必要と思ったからが 274 件、通常の学級だけの学習や生活が困難と思ったからが 141 件、エールや学校などから勧められたためが 148 件となりました。エールや学校から勧められたことや子どもの特性を考慮しての選択が特に多くなっている印象でした。

続きまして④、現在在籍する特別支援学級等を選ぶ際、エールの就学相談員以外の相談した相手についてお答えください。こちらも複数回答可能となっております。回答数の多かったものについては、日野市発達・教育支援センターエールの心理士・OT・ST が 230 件、幼稚園・保育園の園長・担任が 80 件、学校の校長・担任・通級指導学級等の教員が 104 件、病院・医療機関が 111 件、保護者の親族・友人・知人が 70 件ということになりました。エールが全体的では最も多くなっていますが、その他保護者や本人に普段からかかわりのある方、親交の深い方との相談が全体的に多くなっているようです。

続きまして⑥、お子様が特別支援学級等に在籍していることで、「良かったと感じていることにお答えください。」ですが、こちらも複数回答となっております。数が最も多かったものは、「本人の特性に合った指導を受け、成長している」で 274 件、「本人が自信をもって学校に行くようになった」131 件ですとか、「学校に困りごとの相談がしやすくなった」が 167 件、こちらも多くなっております。一方で「在籍したメリットは感じられなかった」という回答は全体で 5 件にとどまりました。また 5 の続きとして、5-1、「在籍したメリットが感じられなかったと回答された方についてメリットを感じなかった理由をお答えください」については、「あまり成果が感じられない」だとか、「本人の特性にあった指導を受けられていない」との回答をいただいております。続いて⑥「特別支援学級と通常学級との連携はとれていると思いますか」については、「とれていると思う」が 257 件、「とれていないと思う」が 17 件、「わからない」が 81 件、未回答が 1 件となりました。⑥の「連携が取れていない」と回答した方については、「連携が取れていないと感じたのはどのようなことですか」とお聞きしております。結果としては、「通常の学級の教員の特別支援教育に対する興味や知識が不足していると感じる」、「指導力に差がある」ですとか、「教員の情報共有が不十分であったり、教室の移動について通常学級とステップアップとの間で共有が行われていなかった結果その子だけ取り残されてしまった」という意見が出ていたりですとか、そもそも校内で交流が行われていないと、「よくわかりませんです」とか、「通常の学級の児童にからかわれてしまったことがあるため」などのご意見がありました。

続きまして⑦、「特別支援学級等に期待することをお答えください」ですが、こちらも複数回答可能となっております。もっとも回答数が多かったものは「個別指導の充実」が 203 件、「小集団指導の充実」が 134 件、「特性への理解・啓発」が 111 件、「通常の学級との連携」が 128 件とこちらも多くなっております。

続きまして⑧、「小中学校の授業における 1 人 1 台の学習者用端末、通称タブレット PC ですが、こちらの利用についてどのようなことを期待しますか」とお聞きしました。

こちらは自由記載でいただいた中で回答件数が最も多く、256 件いただいております。内容を一部抜粋してお伝えいたしますと、「ローマ字の入力ができるようになる」、「インターネットの使用をする際のルールを身に着ける、プログラミング、ブラインドタッチなど、パソコンの正しい使い方やパソコンのスキルを身に着けること」ですとか、「自宅から参加可能なオンライン授業の実施」、こちらは不登校のお子様ですとかコロナの対応で必要なのではないかというご意見が出ている他、「教科書やドリルをタブレット PC に置き換えて荷物を軽くしてほしいです」とか、「特定の授業のみではなく普段の授業内でノートとしてタブレット PC を利用する」、あるいは「筆記が困難な児童のため板書」や「テストの回答が可能になってほしい」、「音読の際に読んでいる文字の色が変わる」、「教科書の文字が拡大できる」、「聞き取る力が弱い児童のために文字や絵を表示して理解が深まってほしい」、「学校・生徒・保護者コミュニケーションの充実に使用したい」といったことがあげられました。

続きまして⑨、「かしのきシートを作成していますか」という問いに対しては、「作成している」が 327 件、「作成していないあるいは作成をやめた」が 28 件、未回答が 1 件でした。かしのきシートを作成していると回答された方へ、「作成している理由をお答えください」という問いに対しては、「次の場所へ支援をつなげるため」が最も多く、続いて「エールから案内されたため」が 132 件となりました。「かしのきシートを作成していない・作成をやめた」と回答された方にはその理由をお伺いしたところ、「作成する必要がないため」が 7 件ですとか、「学校の指導でどのように役立っているかが見えない」が 8 件というものが多くなっております。その他のご意見としては、「そもそもかしのきシートがどういったものかよくわからない」というものがあげられました。

続きまして⑩、「かしのきシートの引き継ぎについて在籍する小中学校の他に保護者の方がご希望すれば放課後等デイサービス・学童・わかば教室等へも引き継ぐことが可能になって負いますかご存じでしたか」という問いに対しては、「はい」が 131 件、「いいえ」が 223 件、未回答が 2 件となりました。引き継ぎ先の詳細については、あまり周知が進んでいないような印象を受けました。「引き継ぎ先について知らなかった」と回答された方へ、「知らなかった場合でもかしのきシートの引継ぎを希望しますか」とお伺いしたところ、「はい」が 117 件、「いいえ」が 104 件、未回答が 15 件でした。

⑪、「かしのきシートによる関係機関の連携についてお伺いします。かしのきシートの連携が取れていると感じますか」とについては、「はい」が 170 件、「いいえ」が 168 件、未回答が 18 件となりました。「かしのきシートの連携が取れている」と回答された方へ、「どんな時に連携ができていたと感じましたか」という問いに対しては、「新しい環境に移った際、医師から自分の子どもの特性について説明する必要が無いです」とか、「面談など限られた時間の中で事前にお互いかしのきシートを見ているので効率よく相談するのに役立った」などの意見をいただきました。また「連携ができています」とするうえで、「保護者の方もかしのきシートを常に参照できるようにしてほしい」とのご意見

もいただいております。また、「かしのきシートの連携が取れていない」に「いいえ」と回答された方へ「連携が取れていないのはどのような時ですか」とお伺いしたところ、「かしのきシートに関して担任の先生と話したことが無いです」とか、「かしのきシートに記載している内容を何度も在籍しているところで聞かれてしまうため、読んでいないのではないか」というようなご意見をいただいております。

続きまして⑫、合理的配慮についてです。「学校生活で児童や生徒の必要と考えられる配慮を受けられなかった、または配慮を受けられたが周囲の理解が十分ではないと感じられたという経験がありますか」について、「はい」が 100 件、「いいえ」が 250 件、未回答が 6 件でした。多くの方が「合理的配慮を受けることができなかった」あるいは「周囲の理解を十分に得られなかった」と感じる経験があるようです。合理的配慮について配慮を受けられなかったと感じた方へ「どのような配慮が不十分であると感じましたか、またその際どのような配慮が必要だったか」とお伺いしたところ、通級を利用していた際、「通級でのサポートを期待しましたが特別支援学級への転籍を促されてしまった」ですとか、「タブレット PC での定期テストを受けることができない」ですとか、「本人の特性について事前に伝えていても適切な対応をとってもらえなかった」あるいは、「担当の医師から字を読み上げるタブレット PC 用のアプリを進められたが、ステップ教室の教員から日野市で使っているところが他にないので使えませんと言われてしまった」などがあげられました。いっぽうで、合理的配慮を受けられましたと答えた方について、「配慮の中でより良いと感じたものをお答えください」とお伺いしたところ、「本人が出席可能な日程・授業に合わせて個別に時間割を組んでいただけた」ですとか、「担任が事前に板書予定の内容をプリントして本人の手元に置いてくれたので本人の負担軽減につながった」ですとか、「特別支援教室について担任が全体に説明をしたのでステップに出かける際もクラスのみみんなで温かく送り出し・迎え入れる雰囲気を作ってくれたこと」などがあげられました。

続きまして⑬、小学校自閉症情緒障害学級につきまして、「新設される小学校自閉症情緒障害学級に期待しますか」については、「はい」が 306 件、「いいえ」が 41 件、未回答が 9 件となりました。小学校自閉症情緒障害特別支援学級の新設への期待値が非常に高いことがわかります。

続きまして⑭、「日野市において保護者同士の情報共有・交流ができる場が充実していると思いますか」については、「はい」が 69 件、「いいえ」が 279 件、未回答が 8 件となりました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、ここ数年は交流の機会が限られていることもございますが、情報共有・交流の場が全体的に不十分であるということがわかりました。

続きまして⑮、「今後保護者同士の情報共有・交流の場を設置する場合、どのような場所が必要だと思いますか」については、様々ご意見をいただいておりますので、いただいたご意見を対象者・場所・回数・時期・専門家の有無・その他に分けてご説明いた

します。まず対象者については、困りごとの内容がより近い同士、学年・在席級が近いもの同士、特別支援学級を利用中の保護者と通常学級のみで特に特別支援を利用していない保護者同士など、状況が近いもの、あるいはまったく違うもの同士などにニーズが様々出ておりました。次に場所についてですが、小中学校で行う、特に保護者会後の教室を貸してほしいですとか、オンラインやSNS 上で行いたい、また児童館・地区センターやエール、イオンモール・スーパーなどと隣接した会場など日常生活で気軽に立ち寄りやすい・利用しやすい場所があげられていました。回数や時期については、月に1回から数か月に1回まで様々ございまして、タイミングとしては小中学校入学前ですとか各学期終了後があげられていました。時間帯に関しては、土日祝日ですとか平日の夕方から夜にかけての遅い時間が望ましいとのご意見が多くございました。専門家の有無については、多くの方が交流の場にぜひ来ていただきたいとしている中で、例としては発達障害や小児専門医あるいは専門家の方、また本人自身が発達障害で講演をされている方などをお呼びしたらいいのではないかとのご意見があげられました。その他のご意見としては、落ち着きのないお子さんですとか兄弟がいる親は他の親と公園や在席学校等でゆっくり話すことが難しいので非常に孤立しやすいとのご意見ですとか、カフェや赤ちゃん広場のようにその場で集まって子どもを遊ばせながら保護者同士で話せる場所が必要だとか、学校で行われる場合学校や小中学校の垣根を越えて交流できるとよい、オンライン開催の場合は顔出しせずにチャットで質問して全体に向けて回答する方法であればプライバシーがまもられるのではないかと、就学・進学・就職など進路について相談する場が必要、あるいは保護者のみでは情報が偏るなどトラブルも多いため専門家や市の職員も入ってほしいというそういった意見があげられました。その一方で、交流は全く必要としていません、むしろ持ちたくないといったご意見を持たれている方もいらっしゃいました。

続きまして⑯、「特別支援教育の推進や充実に向け、日野市教育委員会に期待することをお答えください」こちらも複数回答可能となっております。特に回答数が多かったものは、「相談支援体制の充実」が160件、「特別支援学級等の充実」が163件、「教員の指導力向上」が170件、「介助院・学級支援員の配置」が46件、「支援情報の引継ぎによる切れ目のない支援」が133件でした。特に教員の指導力向上について臨む声が多くなっておりまして、次いで特別支援学級の充実、相談支援体制の充実、介助院・学級支援員の配置、支援情報の引継ぎによる切れ目のない支援が上がっております。

最後⑰です。「特別支援教育や発達・教育支援センターエールなどの取り組みについてご意見・ご感想がございましたらご自由にお書きください」っていうところでは、「教員の負担軽減のため学校にかかわる教職員の先生方・学級支援員・サポーターなどの増員をしてほしいです」とか、「発達・教育支援センターエールの予約が取りにくい」、「もう少し早めに面談ができるようにしてほしい」ですとか、「エール自体の情報発信を増やしてほしい」、「特別支援教室の指導期間を1・2年と区切らずに支援を受け続けられ

るようにしてほしい」、「特別支援教育の利用で抜けた授業のフォローを行ってほしい」、「特別支援学級の設置校を増やしてほしい」などがあげられました。
アンケートの集計結果の速報については以上になります。

(小貫委員)

前回と比べて教室と学級分けなかったっていう話ですがその理由は何ですか？

(事務局)

前回に関しては、お配りするところは分けましたけど、内容に関しては少し文言が変わっているのみで一緒のものをお配りしていたようでしたので、今回は一つにまとめてお配りさせていただきました。

(小貫委員)

どうして質問したかと言うと、サンプルが教室に偏ってしまうので、集計したら教室の傾向分析が強く影響しちゃうんじゃないかと。ですから例えば一番大きいのは特別支援学級等に期待することを教えてくださって言った時に、個別指導と小集団指導ってたぶん教室と学級の教育の質の違いがおそらく関係しちゃうので、場合によっては項目は教室だけ分けないと、基本的に一番心配でリスクを負うのは学級の声が薄まっちゃう可能性かなっていうのはそこらへんが気になるので、簡単にできるようだったら少し実態を把握するためにそのようにされた方がいいように思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

分析ができるかどうかは確認してみます。もしできるようであれば。

(小貫委員)

特別支援教室は、特に人数多いので、特別支援教室は純粹で見た方が市内でのデータとしては有益になるんじゃないかなと。

(阿部委員)

少年学級親の会の阿部と申します。私の子どもも滝合小学校に行っていて、このアンケートを私の妻が回答したということで、やらせていただきました。回答率についてなんですけど、前回の第5次の方は71%程度っていうことですが、今回34%っていうことで、半分ぐらいということで、このあたりはどうお考えなのかなというところですよ。有用性というか、対象に対する有用性ですよ、それは非常に気にはなります。

(事務局)

前は紙での配布で、学校でお配りいただいて学校で回収という形でしたので回収率と

しては高くなったっていうところがございます。私どもも最初にやるときにそこに懸念があったんですけども、やはり集計等・分析等のことを考えますと、このやり方をやるのがいいんじゃないかということで今回このやり方を選択させていただきました。ただやはり、思った以上に回答率が低かったのもそれは私どもも計画を策定するにあたり果たしてこの回答率のままでいいのかというところは思っているところもなくはありません。ただもう一度やるとなるとやはり時期的なものもありますのでその辺はもしあれでしたらご意見いただいたうえで検討させていただければと思います。特にこのままでということであれば、できれば進めさせていただきたいという風に思っております。

(山口委員)

今回初めて電子で回答ということで、初めてのことで慣れていなかったということもあるのかもしれないし、周知ができてなかった部分もあったのかもしれないんですけども、これが何回か続けばまた回答率が変わってくるかなと思うんですけど、現段階でいかがでしょうか。

(阿部委員)

わかりました。大体予想した通りの回答だったので、QR コードですからスマホで見るとのことですから、確かに文言が長くなってくるとあきらめてしまった人も中にはいるのかなという風に思います。お話は分かりましたので、これはこれで今回については了解いたしました。

(小貫委員)

事務局に知っておいていただきたいのは、たぶんこういう風な形になると絶対回答率落ちるんですね。それは研究、学会では当たり前話になっていますし、大学生に授業アンケートするんですけどデジタル世代でも、あのレベルの人たちでも絶対やらなくなります。

問題なのはここにアプローチにわざわざ行ったっていう人だけを採用ということになるので、全体の意見なのかどうなのかっていう問題があって、そのバイアスに対して考えないと参考値にしかないっていうことですね。言いたいことを強い意見がある方は言ってくれたっていうこのことも大事なことですし、声なき声がこの中に入っちゃったので、例えばほんとはよかったっていう声ばかりですよ、学級に在籍して。本当なのかっていう肌感覚が教育委員会の方だったら感じる肌感覚としてそうでない方もいっぱいいらっしゃる方はほとんど逆に回答されないっていう話になっちゃうので、これをどういう風に見るかって言うのは参考値、バイアスかからないように良く注意しながら見るということになるかと思えます。

もう1回これを紙でやるっていうのはちょっと現実的じゃないかなと思うんですけど、

そういう意味合いでこのデータを大事に考えるってことになるのかなと。

(宮崎委員)

すごく少なくなったなって思って今話聞いたんですけど、今まで出されていなかった細かい意見がとてまたくさんあって参考になりました。そういう意味ではこの捉え方もありなのかなと思います。確かに小貫先生のおっしゃるように、バイアスがかかっているところを認識してみないといけないかなと思いますけど、少しそういうようなコメントもつけた方がいいのかなと思います。ありがとうございます。

(事務局)

今回のアンケートで、自由記載が結構多かったので、どちらかという自由記載でかなりいろいろ細かく書いていただいたというのがあります。その辺は紙でやったのと違いがあるのかなと思っています。かなりご意見見ていただいたかと思うんですけども細かく書いていただいた意見ありますので、そういったところを見るのと、今回のアンケートの回答の中でも、少数意見であっても反対であったりとか実感されてないとかそういったものの意見ももちろんありますので、その辺もこういった意見があったんだっていうことをよく分析した上で作っていくあるいは進めていく必要があるのかなという風に考えております。

【第6次 日野市特別支援教育推進計画（案）について】

(事務局)

それでは、第6次の推進計画の案についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。前回提示させていただきました骨子案に、協議や意見交換を踏まえて具体的な施策を入れて素案を作らせていただきました。ですので、これから説明はさせていただきますが、その内容に関しては、修正した部分、あとは追記した部分、そのあたりをご説明させていただきます。まず初めに、第1章の計画の概要、それから第2章の推進計画の基本理念と推進目標につきましてです。

第1章の計画の概要につきましては、ほとんど前回お示ししておりますので変わっているところはございません。お伝えしておきたいのは、3ページ目の(3)計画期間でございます。本計画は令和5年度から令和9年度までの5年間という形になっております。1章・2章については、先ほど申し上げました通り基本的には内容を変えずに文言整理だけさせていただきます。1章・2章については以上になります。

(小貫委員)

3年ごとだったのを5年ごとに変えるっていうのは、前回の推進委員会での原案で、推進委員会って別にいわゆる次の計画への決定権はないんじゃないかと思うんですよね。本来この委員会で次の計画は3年じゃなくて5年先だよっていう話は何か承認って言った手続き

はいらないのでしょうか。だれが決めたのっていう話になると思うのですが。いわゆる会議体が決めないといけない話で、推進委員会って見守り・修正ですよ。次の計画の内容について決定するのは策定委員会だと思いますので、結構大きな変更なんです。僕第1次からかかわっているんで、3年ごとに時代の状況に合わせて細やかに見てきたって流れで前回の策定委員会ではやり切れないで終わっちゃうんだよ、今回は少なくともやりきれなかったっていう話になって短すぎるっていうご意見が事務局からあって、そういう方向に次の原案載せますかって決まったって認識しているんです。前回推進委員会に出られていた先生っていうのは、委員長と副委員長もそうですね。これどういう手続きなんですかね。これ教育委員会ですか？3年計画で今までやってきて、6次からは5年にするって言うプランの変更って、どこが責任を持って決める手続きですか？

(事務局)

これは策定委員会の方でと、今小貫先生おっしゃったとおりです。

(小貫委員)

ですよ。次の計画ですよ。次の計画は5年計画にしますっていうのをコンセンサスとらないといけない。これは教育長諮問なんだけど、教育長の許可とかいらんんですか？これまで3年でやってきました、次5年ですって、結構大きな。

(宮崎委員)

これ第1回で検討しなかったんでしたっけ？

(山口委員)

前回ですか。前回では3年を5年にするという検討はなかったような気がします。

(高原委員)

たぶんこの策定委員会の方で3年から5年っていうことで案っていう形で作って行って、最終的には教育委員会の方にご説明をした記憶があるので、その前段で教育長にはお話をした方がいいのかなと。

(小貫委員)

高原さんの時代に3年にするって、5次で決めたんでしたっけ。

(高原委員)

もともと3年だったので、今回5年になるので、このテーブルで案を作って教育委員会に。

(小貫委員)

次なんですよ。諮問して、どうなるんですか？5年だよっていう原案は出ますよね、3年って結構高速なんです。よその市だと、4次とか5次とか、ワンテンポ遅れてるんですけど、もともと第1次の検討委員会って、他より前倒しでやるって言うことで僕呼ばれたので、前倒しになっちゃったって3年の回転が早いってというのは事実です。ただ手続きの大きな変更がさらっと言っちゃっていいんですかね。

(事務局)

教育委員会と教育長も含めて、ご説明というか、お話はさせていただいております。後は教育長の方もご存じでいらっしゃると思います。ですので、あとは策定委員会の方でご意見いただいて、もし3年の方がっていうことであればそれをまた教育委員会の方にお話をします。

(山口委員)

この3年・5年ってというのは、今すぐ決めた方がいいですか？さきにこっちの中身の方に入っては。

(小貫委員)

大きいですよ。中身に関係しますので、3年でやる内容か、5年でやる内容か。

(山口委員)

わかりました。今までずっと3年できたものを今回から第6回は5年かけるということですよ。ということに変更ということで策定委員会でのご意見をお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。

(小貫委員)

一番気になるのは、具体的にどういう計画に違いが、3年サイクルと5年サイクルで出てくるのかって言うのが一番気になります。

僕は3年のサイクルに慣れちゃってるので、3年は時代変化に対応したり現実の課題に対応して片づけていけるっていう強さがあったので、ほんとのことをいうといいなと思ってたんですね。どうしてかっていうと、課題が放置される、5年間って結構長いので、そこからだとかえってよいしょってなって労力かかってくるので、3年で細かい修正どどんかかっていくって話は日野の強みだったんじゃないかなと思うんですけど、一方で積み残しが起こるって話は確かにそうだと思いますし、よそと比べると早いんじゃないって言われるとそうじゃないかなって思うのでそのあたりがどう変わってくるんだろう、むしろ現場の感覚として。

(石川委員)

平成 28 年度からモデルで特別支援教室をスタートしてましたけど、そこから入りから何年間のうごきの速さと入室の決まりとかですね、流れが変わっているんで今小貫先生言われたようにいろいろ解決できないで 3 年はおわってしまうかもしれないんですけど、現場においては 1 年 1 年の変化の対応についていくのが一所懸命なので、3 年ぐらいが今のところいいかなって気はするんですけど、長いとその間変わっているのにここは変わっていないのって言われてしまうと、また現場でも少し混乱することがあるのではないかなという気はしますけど、私の意見ですけど、またご意見いただければと思います。意見をいただいてって言うところなんですけども、他に何かご意見あれば。

(正留委員)

なぜ 5 年にしたのかっていうのが、よく見えないっていうので、そこら辺の発想の原点は 3 年から 5 年にする理由を明確にしてもらわないとどちらがいいかっていう話しても見えない、私は 3 年間でずっと慣れてきてはいたので。

(事務局)

5 年にした理由って言うところはですね、3 年の時は先ほど小貫先生のお話にありましたように、積み残して言うところがあるというのはもちろん出てきているところではありません。次の計画に載せるっていうことになるんですけど、平成 19 年から教育法変わって、特別支援教育の流れってすごくいろいろなものが毎年のように変わって行って、動いてきたというところがあると思います。その時期が過ぎているわけではないですが、そういう風にいろいろ積み重ねて新しいものに代わって行ってって言うところまでは今来ていると思います。この先どういう風になるかは私たちもわからないというところがあるんですけど、わからないからこそその流れを見るためには 3 年ごとって意見もあるかと思うんですけど、私ども 5 年にしたのも途中で何も変えないということではなくて、3 年間というところではなくて 5 年は、東京都の特別支援教育の計画など、そういったもろもろも含めて 5 年計画になっているところが多いです。ですので、そういったものと同じように合わせていく、そういう中で今 3 年にしますと実は来年学校教育基本構想の改定とかも含めて、これから進んでいく形なんですけど、どちらかという、どちらかが追っている、どちらかが先に進んでいるって言う状況がずっと解消されずにこのまいく形になってしまうので、私どもとしては 3 年間って言うことではなく 5 年間にしてその中でももちろん必要なものはどんどん変えていくところがあればぜひ変えさせていただく、あるいは施策でこういう新しいものを入れたいとかそういうものをしていけるようにしたいとは思っています。

ちょっと説明になっていないかもしれないんですけど、他の計画の流れも含め 5 年間って言うところを事務方としてもこの教育推進計画がやっているんですけどきちんとできないままにあつという間に 3 年間で終わってしまうって言うところはちょっと難しいところもあ

ります。ですからこの計画をしっかりと進めていくってところも含めて5年間っていう期間をいただきたいっていう風に思っています。

(山口委員)

今説明がありましたがいかがでしょうか。市の計画も5年計画が多いのでしょうか。

(事務局)

そうです。私が携わっている計画で3年っていうのは今までないですね。他はみんな5年。

(小貫委員)

力入れてきたって言うことですよ。

(事務局)

もちろんいろいろ変わってきたり。

(小貫委員)

3年で変えていく良さって、いわゆる状況に合わせて変わっていくっていうマクロの視点もあるんですけど、義務教育9年間在籍する中で、3回大きく見直しがかかるっていうことになると、子どもさん側にやっぱメリットがあるって言うお話がかなり3年を決める段階でそういうご意見があったのはお伝えしておきたいなと思います。我々側の視点についてちやうんですけど、子どもさんが9年間育っていくっていう流れの中でどう学んで行くかっていう意見があったってことです。理想論と現実論ではまた違うと思いますので。

(大西委員)

ご説明いただいた日野市さんの説明わかりました。他の計画とのバランス、整合性というのもわかったんですけど、今年大きな変更が求められると思うのは、12月に通常の学級に在籍する支援が必要な子どもの調査が出ます。これについてはあまり詳しく盛り込まれないですが、22ページなどを見ると日野市でも通常の学級に在籍する支援が必要な子どもが増えていて、平成14年に6.3%、平成24年に6.5%、今年平成34年(令和4年)に6.5%程度だったらしいんですけど、これがもしも大幅に増加して、たとえば7%を超えるとという数になると、予算が無い中でまた新たなことを組み替え、研修の充実等の施策が変わってくると思います。現段階では言えないし、たぶん増えるだろうと予想で書くわけには行かないので、今回の計画を5年ものにしたとしてもこまめに変更していくことを示しておいた方がよいと思います。急遽年末に出る調査でも、通常の学級の子どもへの対策が重要な課題になっているので、この計画にはなかったけど盛り込みましたということが柔軟にできる、対応できるの出有ればよいと思います。(小貫委員)

10年に1回の調査なので。

(大西委員)

関係している人で言うと、先生方のアンテナが非常に今敏感になっているので、たぶん支援が必要と思われる子どもがいると・・・この子支援が必要な子どもなんじゃないかと調査に答えてくる。その結果、数値が上がるのではないかと思います。

本日こちらにいらっしゃる委員の先生方の学校でも、何となく自分の学校でやったら10年前よりは増えるんじゃないかなっていう現場感覚はあると思うんですよ。そこを見て(想定しておいて) いかないとだめだと思います。以上です。

(山口委員)

他にご意見ありますでしょうか。

3年から5年に変えていくというご意見でよろしいですか。5年に変えてもこまめにきちんと現状に合わせて修正をかけていくっていう形をとるということをきちんと策定委員会としては。

(小貫委員)

推進委員会としての立場なので、反対意見ではなくてその時点で賛成を言っているんですが、全体で計画が出てくると中長期っていうか3年で達成しなきゃいけないってことの評価と、5年で評価するっていうものについて明確にして3年のところの推進委員会っていうのはかなり厳しい目でお互いセルフチェックしようっていう風な特別支援教育の見直しも仕組みにしていくっていうようなこともちょっと必要な、5年の話って5年後に評価再検討しますかって言う項目もちょっとあるなって思いますので、このあたりを全部矢印が5年で終わってますけど、3年で終わらせないといけないよねっていうような話をプランをきちっとやっていわゆる締め切り意識っていうか我々も覚悟決めてやっていくっていうことが必要かなという感じがいたします。

(山口委員)

それでは先ほど積み残しも出てくるって言う話ありましたが、やはりきちんと推進委員会で現状を見ながら修正をかけていくということで、5年間、今回の第6回は5年間っていうことでよろしいでしょうか。

(小委員)

中間報告があるような、準じるようなある種の強さを持つような会議体にしにしていたんだけどっていうのは一緒に合わせて提案されたらすんなりいくような気はしますけど。

(事務局)

そうしましたら、3年後に中間報告をするということは第5章の計画の進行管理のところで計画の進捗状況の点検と評価っていうところがございますので、その中に1文を入れたいという風に思いますがいかがでしょうか。

(山口委員)

そういう形にさせていただいて進めたいと思います。前回きちんとこのところを検討しておらず、申し訳ありませんでした。それでは5年ということを前提にして課題の方に入っていきたいと思いますので、それでは第3章の方からよろしく願いいたします。

(事務局)

それでは第3章のご説明をさせていただきます。6ページをご覧ください。第3章が日野市における特別支援教育の現状と課題になっております。これまでの取り組みと成果なんですけど、変更したところあるいは追記したところをご報告いたします。

8ページをご覧ください。(2)特別支援学級の設置状況でございます。令和5年度に東光寺小学校に自閉症情緒障害特別支援学級を新設しますので、その文言を一番下のところに入れさせていただきました。

続きまして少し飛びます。12ページでございます。教育委員会の取り組みと支援体制の中の⑩としまして、今回の推進計画の中に初めて入れます⑩として、デジタルの活用による教育支援ということで入れさせていただきました。新型コロナウイルス感染症という今までになかったものによって、クロームブックによる授業、あるいは持ち帰りによるお子さんの勉強方法というものができてまいりましたので、そのあたり取り組みを行ったということでその文言を入れさせていただいております。新型コロナウイルス感染症の拡大により実施された学校の休校時にクロームブックを持ち帰り、自宅での勉強や授業参加ができるよう整備しました。それから副籍交流はZOOMを利用するなど、新たな方法で実施しました。この文を入れさせていただきました。

続きまして13ページ(4)、福祉と教育の一体となる支援のところの①、エールの体制についてですが、枠の下から3行目、スクールソーシャルワーカーや指導主事などの専門職によるという文言を入れさせていただきました。

続きまして18ページをご覧ください。特別支援学級の児童・生徒の推移でございます。②自閉症情緒障害特別支援学級でございます。令和5年度市内小学校で初めて、東光寺小に自閉症情緒障害特別支援学級を開設しますっていうことで文言を入れさせていただいております。

続きまして24ページをお開きください。特別支援教育の課題でございます。(3)エールおよびかしのきシートを中心にした連携・支援体制の充実でございます。その中で課題として挙げられた内容の中に、一番上のところがございます。仮称子ども包括支援センターとエール

との連携および役割分担というものを課題として挙げております。お手元に子ども包括支援センターにつきましてはA4横の資料で、急遽子ども家庭支援センターの方から資料いただきまして、こちらの資料を置かせていただきました。この策定委員会の中では子ども包括支援センターについて説明をさせていただいていないというところもありましたので、資料の方を置かせていただきました。仮称子ども包括支援センターにつきましては、この資料の右側の下のところ、仮称子ども包括支援センター基本計画というところがございますが、この子ども包括支援センターはすべての子どもの健やかな成長を切れ目なく支援する子ども・家庭・地域の子育て機能が総合支援拠点となるセンターを日野市では令和6年の2月に開設する予定で今動いているところでございます。子ども包括支援センターでは、子育て支援のワンストップ化って言うところを目指しておりますので、左側の下に組織体制子育て支援のワンストップ化ということで、現在子ども部の子ども家庭支援センター・子育て課・保育課のところに子ども発達・教育支援課が令和3年4月から子ども部にはいりまして、その中で子育て支援のワンストップをするというところなんです。子ども包括支援センターでも、これから子供に関する相談窓口というのを一括でやるというところと、エールの総合相談がどういう役割分担をするか、そういったところが課題になっておりますので、その辺を推進計画の方に入れさせていただきました。

続きまして、資料2の方に戻ります。26ページでございます。課題の中で(9)として、今回上げさせていただきました合理的配慮の推進でございます。合理的配慮は一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて決定されるものであり、教育委員会・学校・保護者により発達の段階を見つつ可能な限り合意形成を図った上で提供していくことが望ましいものです。以下の課題があげられます。3点課題を挙げさせていただいております。学校の各教員が合理的配慮を正しく認識して取り組み、児童・生徒に本人および保護者への周知と適切な情報提供を行って行く、合理的配慮の申し出から検討・調整・提供といった文言にさせていただきました。ここまでになります。よろしく願いいたします。

(山口委員)

それでは第3章の現状と課題について今ご説明いただきました。ここで小貫先生からいただいておりますので、小貫先生からもお話しいただいて、合わせてご質問・ご意見をいただきたいと思います。

(小貫委員)

ありがとうございます。お時間いただいて恐縮です。何回かこの1回にずっといろんな意味合いでかかわってきていた経緯と、ともに、現在でも市内半分の小学校・中学校に各期に1回伺わせていただいているということと、就学相談は基本的に全面的にお手伝いさせていただこうということで日程調整等が出るようにやってきておりますので、私の現場とのやり取りや保護者、そしてお子さんを直接見せていただいたりする立場から課題っていう、いわゆる行政側ではなくて私の現場で見てきたことの課題を少しお話させてください。

まずいわゆる極端にここ数年の社会状況もあって、日野市の特別支援教育の中でも特に通常学級における特別支援教育っていうところの学校ごとのばらつきが非常に大きくなってきているなと思います。これは考え方もそうですし、手続き的なこともそうですし、それぞれ違う感じになってきたと思います。それぞれ違うことは別に問題ではなくて、私がいろいろお手伝いしている世田谷とか八王子とか大きいところも学校ごとにやっていかないと回らない、100校を超えるってというような規模は回らないんですが、それまでは日野で全体の統一感をもってやってきたっていう中で、はっきり申し上げると方向性が1回ここで再検討されるっていうことがこれまでの経緯も含めて必要じゃないか、標準化という言葉が妥当かどうかわかりませんが、このことについて考えることが必要かなと思います。これまでそれは日野スタンダードって呼んだんですね。日野スタンダードに関してはちょっとびっくりしたんですけど、結局今回いただいたアンケートの16項目目に、これだけ回答数が300くらいの中で、保護者の意見として日野スタンダードをもっと進めてほしいって言うのがあるって言うのを聞いて、そういうことで作ったわけじゃないんですけど、やっぱりこういうことって視線があるのかなと思ったりしました。この話の背景として、一番アンケートに紐づけてお話させていただくと、最初の4番、4項目目でどうして特別支援学級等を活用することにしたんですかって言った時に、相談機関から勧められたっていう方が圧倒的で、学校現場からの相談が104件みたいな、半分っていうのはこれ本来としての特別支援教育の仕組みが機能しているんですかって疑ってしまう、意地悪な言い方ですけど、これがやっぱりトップに来なかったらおかしくないですかっていうように思っております。これは教育課程に関する問題なので、相談した方がいいって話じゃなくて、学校が主体的に主導してこういった特別支援教育の仕組み、システムを活用することについて関与していくってことは、やっぱりとても重要じゃないかなと思いました。私の意見としては、日野スタンダードってものの推進にずいぶん関わってこられましたし、宮崎先生を中心にこのことを徹底されてきたんですが、ある方の意見では日野スタンダードって言葉も校長先生の中ではあんまりスタンダードじゃないよって伺いましたので、もしかするとここで思い切ってこれまでのことを振り返りながらも、新たな考え方で全部見直すような作業部会のようなものを立ち上げる、日野スタンダードの時もそうだったんですが、そういった形で検討する3年間ってようなものが必要じゃないかなって思っています。これは日野スタンダードってものを修正していく必要がもっとあるんじゃないですか、オーソライズしながら修正していく必要があるんじゃないですかっていう意見をずっと言ってきたんですけど、今回の策定計画では、むしろ廃止して、スクラップアンドビルドの精神で行った方がいいんじゃないかなって思います。これによってやりたいのは、インクルーシブ意識の醸成と何回もでてくる、これは今回の計画の大きなテーマなんじゃないかなって事務局からのご報告聞きましたが、合理的配慮はやっぱり具体的に実施される、これはアンケート取った流れで12項目目で合理的配慮という言葉でこれ言っちゃっていいかどうかわかりませんが、これだけ決定的に配慮されていないっていう風にお答えが出てくるっていう

状況を放置するわけにはいかないでしょうし、ただこれ聞き方非常に難しく、合理的配慮と個別的な配慮は違うんですね。だからこの合理的配慮って言うのは、オーソライズされ、合意形成され、継続され、前回の会議で石川先生おっしゃったように入試でも配慮されるくらいの強さを持っている公的な合理的配慮の不提供を禁止している差別解消法に基づく合理的配慮の問題と教育的な・個別的な配慮の問題を少し分けながらきちんと考えて行けるようなつくりが現場で必要じゃないかなと思っています。少なくとも教育委員会でガイドラインを作る必要はあるんじゃないですか、ある中学校では配慮され、ある中学校では配慮されなかったから入試で受ける配慮が違ってくるっていうことが起きてくれば、決定的な格差の問題になりますのでという話もさせていただきましたが、ここの①に合わせてやっていかなければどうなっちゃうのかなと心配しています。

それから2番目です。かしのきシートですね。これは本当にまた言っちゃいますと、切れ目の無い支援検討委員会っていうところを2回やったのですかね、委員長を務めさせていただいて作ったのがかしのきシートで、その中身についてはわかりやすい図、これその時作ったものなのかわかりませんが、14ページに書かれているのがかしのきシートの仕組みであって、さらにこれをオンライン化してやっていくっていうところで、今爆発的に、2000くらい行ってるんですかね、かしのきシート作成。前は1000くらいだったと思うのですが、非常にかしのきシートを活用している方が市内で1000名程度いるっていう現状で、これを一番大事に考えて行かないと根幹の機能じゃないかなと思っています。ただし、アンケートも見せていただくと9項目目の2なんかでは、かしのきシート作ってよかったって言ってくさっている人が多いようなので、繰り返しですが偏ったデータで非常に前向きにアンケートに参加された方でありませうけど、作成したっていうことでその言い方だと違いますね、やめた方が割と少ないっていう言い方ですね、やってよかったと言ってるわけじゃなくて、辞めた方が割と少ないなっていうような全体の相対的な評価としてはそういうことになると思います。ところがここの問題は例えばかしのきシートが指導にどう役立っているかわからない話であるとか、これは私のお願いで1000名程度のかしのきシートをあるタイミングで指導目標と指導内容を推進計画の委員を委嘱したという立場でお願いして、1000名程度の中身を見せていただくっていう機会が何年前かにありました。しばらく前ですけど。ところが内容結構ひどい、ひどいって言っちゃいけませんけども、ちょっと問題があるんじゃないかっていうものが非常に多くて、いろいろカテゴリ化したんですけど、例えば気合系とか、何とかをするように頑張らせるとか書いてあったりとかしてですね、何もしないとしか読み取れない系っていうカテゴリを作ってしばらく見守るとか、そういうようなことって計画に書かれるような内容じゃないんですけども、現場の先生方の立場からすると、ほんとに書けないんですよ。それはほんとにある種の専門性とか相談しながらとか、今は前回の計画と大きく違うのは完全に年齢構成が若返ってしまっているんで、そもそもそういったものを書けないっていう方がいらっしゃるという中で、やっぱりかしのきシートが書けるのが日野市の先生方だよっていう研修会の充実というようなことを具体的に提

案したいなと思いました。かしのきシート作るときには、縦の連携、横の連携っていう言葉使って、縦は時系列でつながっていくもので、これが一番意識されるんですが、実際はその年度の横の関係機関がつながっていくっていうことを重視したいっていうことで、イメージとしてはインクルーシブモデルが球体化しているっていう感じですね。1本調子じゃないっていう話で合ったはずなんです。これはアンケートの9-1で、なんでかしのきシート作ったんですかって言われたら、次の場所に支援をつなげるため、将来のため学校から言われたから、エールから言われたからっていうのはありますけど、これはっきりしているわけで、繋ぎのバトンなんです。バトンが充実しなければ、日野市で受けた支援っていうのは残念なことになっちゃうんじゃないかなっていう風に思っています。11番目ですね、特に関係機関の連携についてはあまり使ってもらえていない感じがする、半分もいらっしやるっていうことも数字として受け止める必要があるんじゃないかなって感じます。

それからステップ教室ですね、ここまで全然議論されていない話なんですけど、これはほんとにわからないんですが、特別支援教育の都のガイドラインが変わって、1年制限っていうのが起きてきている中で、この1年制限問題はたぶん来年度辺りにどうしようああしようっていう話になってくるんだらうなと思いますが、このことについてももう5年先についていうことであれば、やっぱりここで検討しなければならぬんじゃないかなと思います。私のいわゆる臨床的な活動で、現場に行った時に、この1年制限の問題結構大きくて、いつ受けるっていう話になってるんですね。つまり1年生で使わせてあげたいけど、1年生でやっちゃったら2年生ではもうないよって話になっていけば、もうちょっとなんとか持たせなきゃとかいう話になったりですね、あるいは1年経ったところえ原則的には継続できるって言ってますけど、その原則的に継続できる基準は何なのかとか、あの子は継続できたけどどちら継続できないっていう話になると結構な大きな問題になってくるんじゃないかなと。

それから、言葉の教室と言語の通級と特別支援教育と、重なってどっちにしようっていうようなタイプの子なんかは迷わず言葉の教室じゃないと数年がかりの支援が受けられませんよ見たいなことも保護者の間では常識みたいになっていて、このことって、特別支援教育の教育活動の内容にも関係しますし、さらに通常学級の特別支援教育の活動を強化しないと、本来は受け皿がステップ教室なんですけど、本来は通常学級は特別支援教室にいかにして対応する形なのかっていうことがとても重要じゃないかなと思います。具体的には入退室のシステムになるかと思います。この辺の話はたぶんエールに任せておけば間違いない話だなと思いますが、通常学級での特別支援教育活動の中身について、やっぱりこの流れを考えながらやっていかないとならないなということとともに、4番目が関係します。

これはアンケート⑬、高度な期待が固定の情緒学級の新設にかかっている中で、どう考えても前回の会議で大西先生がご質問してくださいましたが、どのくらいの数で考えていますかっていうようなお話あったかと思いますが、この後おそらく複数の学級を市内に作っていくというのはこれまでの特別支援教育の日野市の政策では常識的にやってきた、よく川向こうとかこっちとかやっとうまく配置するってやってこられていますから、この辺

の視点がかなり計画にきちんと盛り込まれないと、また場当たりの形にならないかもしれないのを心配しています。

それから就学相談が項目⑩で少なくとも就学相談の関連等ですね、相談支援体制の充実って言うようなことがやっぱり期待されているって言うことと、何年も何年もお手伝いしてきましたけど、就学相談が去年・今年ほど件数が、大西先生に伺ったら他の自治体も大変なことになっているということだったんですが、このこと、具体的には日野の完全な弱点ですけど検査待ちが現場ではすごい問題になっていると、これは萩原さんとも相談して進めていきますからおそらく待機 0 に必ずなるだろうと思いますけども、この検査待ちのために特別な場での教育が受けられないっていうような子たちが多すぎちゃって、これはなんとかしなければならぬんじゃないかなと思います。それから明星大学としては、ウィスク 18 台市内に貸し出しておりますので、それなりに地域貢献・社会貢献の文脈の中でさせていただいているのはこのことを何とかしないといけないからということだったということですがまだなかなか減らないなと思っています。

さらに 6 番・7 番は、これはぜひ議論していただきたいな、もしかすると第 4 章辺りじゃなくてもっと前なのかもしれませんが、日野市が目指す大きな教育の方向性と特別支援教育がうまくリンクするような話がそろそろ必要かなと思っています。これ個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実って言うような新しい次の指導要領のテーマになりそうな問題がある中で、この言葉を僕が聞いたときに、まさに通常学級における特別支援教育のあり方なんですね。僕はびっくりした、通常学級の教育が特別支援教育の考え方に寄って来たなむしろ印象を受けた言葉でありました。おそらく非常にリンクしやすいんじゃないかな、協働的な学びの場に個別最適な学びをもって参加するって言うのを合理的配慮って呼んでますよね。ですから、同じことだなんていう風なことでぜひ何だかの発信をこの計画に盛り込んでいただけるといいなと思います。具体的な主担当はおそらくここにいらっしゃる指導主事の宮崎先生なんだろうなと思いますけど、大変顔色伺いながら話すわけですが、やっぱりこちらの宮崎先生が週 4 日・5 日っていう流れですごくこのことをやってこられた、教育と福祉とのつなぎ方というのを専断的にやってこられた中で、週 1 っていう形になっている中で、指導主事の先生が今後、昨年からエールに入ったっていう流れの中で、ここについての現場にわかりやすい機能とか活動の仕組みっていうのもぜひ今までこの話していませんので、やっぱりここで盛り込まないといけないかなって思いますし、おそらく指導主事の先生個人の問題ではなくて、効果検証、計画の見直しっていう推進委員会、先ほども何回かやっている推進委員会の権限評価とか、推進委員会のあり方について変えていくタイミングになってきたのは、これ 3 年から 5 年のタイミングでぜひご検討いただかないといけないかなという風に思います。非常に残念なことですけど、昨年度の推進委員会は 3 月 30 日、3 月 30 日にやっても推進するのは後 1 日しかないっていう風になっちゃうので、やっぱりここはもう少しかなり大事な会議体に格上げしないとならぬんじゃないかなと思います。

8番目は個人的な意見です。対人行動面の問題は、特別支援教室等の整備でだいぶいろいろ整ってきたんですが、私は取り残された発達障害とあえて呼んでいる学習面の学習障害を中心とする学習面の困難を持つタイプの子たちが次の出現率調査、前回これまでの今回終わる6.5のうち4.5が学習面の課題を持っている子たちなんですね。次たぶん私は一番私自身も力を注いできたし仕事が多いのがやっぱり勉強についていけない、静かに苦しんでいる子たちが多いですね。非常に目立って特別支援が必要な子たちは早い段階で目をかけ、手をかけ、気かけながら育つんですが、静かに勉強できない子たちが高学年になって学校に行きたくなっていく、中学校に行くと学校に行けなくなってなんていうケースも不登校の問題との絡みも、これは後で正留先生にぜひご意見いただきたいですが、やっぱりこれも含めて考えなきゃいけないなという風に思っていて、日野の実践研究の中ではこの3段階構えっていう全体の授業の工夫と配慮と通級による指導を基本とするような補充的な指導みたいな形で何とか全体を救い上げて行こうっていう話があったのもあえて図を入れさせていただきました。この問題どんな風にこの計画に盛り込まれるのかなっていうのがやっぱり現場に巡回している、就学相談に対応している私としては気になるところであります。以上です。

(山口委員)

ありがとうございます。それでは事務局から説明のあった現状と課題、後小貫先生が関わってくださった中で今回のアンケートを見ながら課題として考えていただいたご意見を合わせて委員の皆様から質問とかご意見をお伺いしたいと思います。

(大西委員)

私から何点か申し上げます。アンケート結果及び、今回の計画を見せていただいたんですが、アンケートの4番目のところ「就学相談員以外で相談した相手機関についてお知らせください」の回答です。先ほども出ていましたが、担任の先生っていうのが少ない。幼稚園だと園長先生が2番目で担任の先生が1番になるべきだと思うんです。私は現在仙台で幼稚園・保育所回りをしているんですけど、そこで一番相談されるのが障害があると疑われる子どもさんの保護者になんとって教育相談会、(日野市の場合には)エールに足を向けさせるようにしたらよいのかという相談が多いです。若い先生が、ご自身はこの子には障害があるのではないかな、小学校へ行ったら通常の学級では難しいのではないかなと思ってもなかなか言えない。私は子育て経験がないし、それを言われると答えられない。そこについて悩んでいるというのが現状です。幼稚園・保育所の先生の専門性というか、障害に関するとか、就学に向けての専門性を底上げしていくっていうのはとても大事なことだと思います。園長先生は、相談を受ける人としていらっしゃるんですけど、園長先生が全部の園児の保護者の相談を受けるっていうわけにはいかないんで、日々見ている担任が一番実態を良くわかっているんで、そこが相談の窓口になってある程度そこで方向性を示して

あげればよい。診断を受けている子どもさんとか障害が明らかなお子さんはそういうことは、どうしたらよいか分からないということはないんだと思うんですが、小学校通常の学級へ行けば行けるだろうけど、通常の学級で30人の中で学んでいくことが困るであろうというお子さんであって、幼稚園・保育所の担任が「この子1年生になったら苦労しますよ」と感じている子どもさんは、きっと苦労するんですね。担任の実態把握がぶれている、間違っているということはないと思いますので、担任が保護者の相談を道受け止めるのか、そういう研修の充実、教員の研修もそうですけど幼保の教員の先生方、保育士さんの研修が重要だと思います。

それから、現状と今後の課題の書き込みのところで、ICTのことが書かれていたんですけども、クロームブックを持ち帰らせたとかZOOMなどで副籍校交流をしたとか、副籍校交流は障害のある子どもですけど、先ほどのアンケートの中に障害特性に合わせた使い方をしてほしいって言うのがありましたよね。黒板写せないから写したいとか、○で入力して記述とか、障害特性に応じたICT・デジタル活用というのを今後の取組として書き込んでいく必要があると思います。具体的に言うと25ページにICT活用の課題が特別支援教育の課題にもあるので、本計画の5か年で先生方に障害特性に応じたICT活用を行っていくことが必要です。一番最後の9番のところの合理的配慮の推進にもつながっているんで、そこは考えて行けば、現在もの（タブレット等）はそろっている状態になりつつあるので、どうやって使っていくかを考えていけばよい。ICTについては専門家がいると思いますので、また、若い先生方であれば日々実践をしていけば実践をためておいて、こういう取り組みができるっていうのを残していけばよいと思います。

それからこの夏休みにいろいろな研修会をやって、相談を受けたのが、高校の先生から「かしのきシートのような個別の指導計画・支援計画を引き継ぐっていうことになっていますけど、みんなそれを高校に持ってくるんですか？私は見たことがありません。他の自治体ではどうなっていますか」という質問でした。もちろん、高校に個別の指導計画・支援計画等を引き継いでいるという生徒もいることはいるのですが一方、持ってこない、引き継がれていない生徒さんがいる。特に通常の、地域の八王子高校とか日野高校っていうところに入學して、それまでは通級指導を受けていたり、特別支援学級か通常の学級かとうことでずっと揺れてきたような生徒さんであって、個別の指導計画・支援計画を作成していたにもかかわらず引き継がれていない生徒はいます。これらの計画（かしのきシート等）は、引継ぎすることが義務ではありません。法律上で義務には成っていません。指導要録の写しなどは引き継がねばならないものですが、個別の指導計画・教育支援計画はあくまでも本人と保護者の必要感ってところなんです。ただし、引き継ぐことによってメリットがありますよって言うことと、中・高の接続の時に、「引き継いでください」という声掛けをしてもらって、そのそういうシートを持っている生徒が受験してきたという情報は入ると思うので、そのシートの引継ぎっていうの重要だと思います。これは中高の先生方の理解促進だと思います。、ここ（本会議）は義務教育の部署になると思うんですけど、日野市教育委員会として

中高の連携っていうのはすごくここは大事だと思います。先ほど小貫先生から出ていましたけども、通常の学級でのユニバーサルデザインとか、特別支援教育っていうのをやっていかないと、支援が必要だといわれる子どもが、明らかに多くなりましたという話になった時に、それを全部特別支援教育の側で見ていくっていうことではなくて、通常の先生がどこまでやるかということを経験豊富な先生が、年齢的に世代交代で若い先生が入ってきた時、若い先生方っていうのはやる気はとつてもあると思うんですけど、保護者対応等はなかなか教科書ではわからないところもあるので、そこら辺の底上げっていうのをしてあげるっていうのはこういう委員会で方向性決めてバックアップが必要なのかと思います。

それから、私は今、東京都の就学支援員をやっていて、今年は区市町村の就学担当者用の動画研修と東京都の幼稚園・保育所の障害のある子どもさんを担当している先生方の動画っていうのをつくって、それを配信しています。障害のある子どもについての研修会は動画だけでは伝わりにくい部分があります。困っている先生が、見れば理論的にはわかると思うんですけど、顔を合わせて特に障害のある子どもさんとか疑いがある子どもさんの悩みっていうのは多岐にわたっていて、それは個別個々に具体的です。だからそこを丁寧に拾って行ってあげるような相談会とか研修会とかでサポートするっていうことが大切です。かしのきシートについても作成の仕方、書き方、活用方法などをうまく新しい先生に伝えてあげると、頑張る系とか意欲で書いていくんじゃなくて、個別の支援シートっていうのは引継ぎがうまくできていて、次担当した人がわかっていなくてもこれをしてくださいっていうのが明確になっているっていうこれをする子どもさんはうまくやっていくことができるそれをまとめていくことが大切です。実態だけ書いてあると引き継いだ人は困るんですよね。実態はこうです、実態はこうです、じゃあどうしたらいいんですか？あなたが考えてくださいって言われると困るので、当面のやるべきことはこれですよ、これやってみてください、これやって合わなければ方向変えてみてくださいっていうところまで書いて行ってあげるのが引継ぎシートの大きな役割だと思います。たぶんお医者さんのカルテってそういう役割があるから、担当が変わっても対応していくことができるのです。方向がずれましたけども私からは以上です。

(宮崎委員)

先生方のおっしゃることはごもつともで、そのところが課題だから強調してやっていかなきゃいけないなっていうのを何年か前から少しずつですが進めているところです。かしのきシートにしても一時期よりずいぶん持っていく子どもが増えたんですね。ただその中身が価値があるものであれば喜んで保護者も持っていくだろうけど、これじゃこまりますっていうような苦情が2年ぐらい前にはい幾つか出てきましたけど、最近はそれが出ない、これはあきらめたのか、少し向上したのか、できたら少しうまくなってきたのかなっていう風に思いたいところなんですけど、そういう部分もあるかと思います。研修会で個別の指導計画の書き方なんかの研修もしているところです。でもまだまだ不十分だと思います。

私1つ、ここで言うことなのかわからないんですけど、合理的配慮の推進って言うことで、正しく認識して取り組むとか情報提供を行って行くとか、評価をしてプロセスを整備するとかいうようなことが書かれているんですけど、対策の方なのかよくわからないんですけど、もう少し具体的にちゃんと合理的配慮ができるように各学校で合理的配慮の窓口を作るみたいなことをしたらどうかなと、具体的にしたらどうかなと思っています。新たな仕事で学校はこれ以上大変って思われるかもしれないけど、でもそんなに新たなことたくさんするわけじゃないですよ。もともと校内委員会はあるしコーディネータ中心にやっているところなので、合理的配慮の担当者かなんかを決めて保護者に宣伝をしてこういうことで申し出があったらどうぞっていうようなことをやって行くと、少し学校内の理解も、それから保護者の理解も広がるのかなみたいな。なるべく具体的な行動でやっていくことなのかなっていう風に思ったりしました。

それから日野スタンダードですけど、小貫先生からすると日野スタンダード廃止、今まで日野スタンダードって絶対最初に作ったあれがすべてでっていう風に思ってなくて私は考えていたんですけど、その時々少しずつ足して行きながらこれが日野スタンダードですよって言うような感じで進めてきたんですけど、それはこっち勝手に思っていたことで、校長先生のあれは耳にも入らなかったのかもしれないなと思ったりはしているんですけど、日野スタンダードが無用のものになったなんて1つも思ってないんですよ。その辺、廃止っていうのはちょっと乱暴なんじゃないかなみたいな気がしたんですけど。

(小貫委員)

標準化は必要なんです。今までのスタンダードをいったんちゃらにしたとすると、そこからだいたい一緒になったりすると思いますけど、時代もシステムも違うから、作り直しで日野スタンダードっていう名前にまた戻るのか、違うネーミングになるのかっていう話のタイミングに来ているんじゃないですかっていう話ですから、無駄だとか、無駄ではないけれども、無駄じゃないので中身の検討はやっぱり完全にいったん0ベースから始めたらいかがでしょうかっていう、それを今回の計画に盛り込むかどうかっていう話ですね。作業自体は0ベースじゃないですけど。今あるものに載せていくと思いますけど、かなり載せたり引いたり足したりが増えるんじゃないかなっていうのが実感です。そのためにはやっぱり具体的な作業工程を作らないと、気持ちだけになって終わらないか心配しています。

(小貫委員)

僕通常学級の特別支援教育のこと言いすぎてますが、本来は日野で大事なものは特別支援学級の話で、七特のセンター的機能とか。市内の放デイのケアは相当七特がやってらっしゃると思うんですけど、6番・7番ですね。七生特別支援学校は日野にとって特別すぎて、日野のためにケアしてくださっているような。

(黒沢委員)

通学区域が日野市だけなのでそれはしょうがないというあたり前のことです。今ケアというお話がありましたけども、それぞれ事業所さんをお呼びしていろんな連絡調整会のようなものを行っていますし、放デイさんとかかわりっていうのは強いついていう風を感じています。これは私の個人的な意見かもしれないけども、学校という立場は放デイ利用者としては保護者が契約者であるので我々がどこまでかかわっていくかということについては一線を引いておかなきゃいけないなっていうことはありますが、それは昔の話なのかもしれません。今は本当に学校と放デイは密接にいろいろな情報を共有したり、例えばこの新型コロナのことについても保護者から本来は情報を提供するっていうのが筋なんですけども、学校から情報が欲しいといわれると学校も出していますしそういう意味ではトライアングルですね、学校・放デイ・保護者、これが協力し合いながら進めていくっていうのが地盤ができていくという風に私は考えています。

(山口委員)

ありがとうございます。たくさんご意見をいただいているんですが、今いただいているご意見が今度具体的な施策に盛り込まれていくはずになると思っていますので、今お考えにある課題とかを出していただければという風に思います。

(比留間委員)

私の方は推進計画の素案を読ませていただいて、基本理念の中に幼児という言葉が入っていたんですけど、書いてあったので、幼児のことが盛り込まれてるのかなと思って読み進めたんですけど、やっぱり中心が小学校・中学校のことだったので、やっぱり幼児期の特別支援教育は大切だと思いますし、公立幼稚園でも支援が必要なお子さんをたくさんお預かりする立場で、ほんとにたくさん来ているんですけど、他の民間の幼稚園に行かれています方もいますし、公立の保育園の方もいらっしゃると思うので、全体に特別支援教育の大切さみたいなものを教育委員会がかかわらないっていうんですか、民間だと関わりにくい、公立の保育園もそうだと思うんですけど、そこをところを発信していく必要があるのかなって、幼児期の特別支援教育も大事だし、小学校・中学校へ行くところという風につながっていくんですよっていうのを情報としてお知らせするのは大事なのかなと思いますので、計画ができましたらそういうところにもぜひ発信していただきたいなっていうところと、幼児期のことも少し盛り込んでいただきたいなと思いました。

(山口委員)

ありがとうございます。先ほど大西先生からも幼稚園・保育園の先生方の専門性の向上も必要だっていう話もありましたので、その部分も少し膨らませていく必要があるのかなって言うような感じでした。

(小貫委員)

それについて補足させていただくと、エールの心理相談の窓口のスーパーバイズも、させていただいて、いろんなことやっててすみません。コロナの時にとんでもない件数の就学前の相談が押し寄せた月がありまして、ほんとに困っていらっしゃる就学前の対応をしている関係機関ももちろんそうなんですけど、保護者も極めて困っている、先ほどのアンケートでも14項目目のサロンみたいな作れないかって、僕その時には心理の先生に言ったんですけど、あまり具体的には動かなかったんですが、いわゆる何とかしないとしない、こういう包括支援センターとの絡みも含めて就学前からの具体的な計画をしっかりと掛け声だけじゃなくて具体的に進めていくっていうのをぜひ第4章には項目で盛り込んでいただきたいと私の立場からは思います。

(事務局)

ここまでいただいたご意見については持ち帰り検討させていただいたうえでまた皆さんにお渡しさせていただくようにします。それでご意見いただければなという風に思います。また次回ってことではなくて、今はメールという方法もありますので、そういったものでご意見いただけるような形も作ればなという風に思います。よろしくお願いたします。

(正留委員)

先生方のお話と重複するかもしれないんですけど、小貫先生の方から提案のあった日野スタンダードについての考え方は、再構築するんだ見たいな話の私なりの捉え方とは実は今回も出てますけど毎回出ているのは学校の教育の指導力の向上、先生方の指導力の向上っていうのは必ず出てきているわけで、今回も、日野スタンダードを作り上げてこられた中ですね、当初はすごくそのあたりが理解されて進んでいったようにも思います。ところが先ほど宮崎先生の方から話があって、今とても大事にしているんだっていうのはどういう理由かと言ったら実現がされていないところがたくさんあるので、そういう意味できちんとした基本的な心得をしっかりと伝えていきたいんだっていう思いもあるんじゃないかなって思って、わたしもそう思っています。ただ小貫先生がおっしゃっている日野スタンダードではなく、もうちょっと違う形で時代に応じた形として作るというよりもよくわかるんですけど、おそらく今回もこれからも、学校の指導力はここの先生の指導力の向上がずっと続いていくんだろうと思います。現状についてちょっと私なりの解釈をすると、これ毎回言ってますけど日野の特別支援教育としてやってきたことで、経験された人がどんどん異動されて今いない、そしてコロナのこともあってここ数年は研修も各学校で進んでたかどうかはあやふやだなと思います。

それぞれの学校で特別支援教育を日野の今まで作り上げたものを大事にしつつ、もっと発展していくために何をすべきかっていうようなものが生み出されていないように正直おも

うんですね。そこはとても大事なところかなと思っているので、当然同じような文面になるかもしれないけども、教員や学校の研修っていうのはすごく大事になったので、小貫先生おっしゃっているUD化の授業であったりする考え方もですね、戦力が今ほんとに私はあるようでない状態になっていると思います。そこでそういう再構築っていうような、もう1回考え直して作り直すっていうようなことも小貫先生の発想っていうのはある意味的をすごく得ているんじゃないかなという風にも思います。

話が飛んだんですけど、簡単に言ったら今まで培ったかしのきシートもどう取り組めばいいかとかいう基本的なことをしっかりまもりつつですね、その辺りをしっかりとらえながら次の施策を決めていくべきだと思います。それはやっぱり人だから、人をどうやって育てていくかっていうような学校で育てていくかというような視点があって作っていくと見えてくるかなという気がします。抽象的な言い方で申し訳ないですけどそういう風に思います。以上です。

(黒沢委員)

4章にかかわってしまうんですけどよろしいですか？ページで言うと27・28のところなんですけど、(2)の連携支援体制のことであるとか、28ページの(3)のかしのきシートの内容充実っていうところで少しお話をさせていただきますけど、先ほどから話が出ているのと話がかぶるんですけど、東京都教育委員会では今年度から推進計画の第2次実施計画に基づいて、都立高等学校等に在籍する発達障害のある生徒への支援の充実っていうのが推進計画に基づいて制度化されてスタートしました。

具体的にいうと、都立特別支援学校が地域の都立高等学校等へ支援していくという、センター的機能を活用してこれまで小中学校に行っていたようなことを今度は高等学校にとという感じで、段階を踏んで今進んでいるところで、本校も日野市や八王子、立川、昭島にある高等学校7校と連携を構築している最中なんですね。そういうことで行くと、これまでに以上に発達障害のある生徒の中学校から高等学校へ行く進路先の選択肢が広がってくるという風に思います。

これまでは特別支援学校しか行き場がなかったというお子さんもですね、高校へ行って安心して豊かな学校生活を送れる、そういう支援を受けることでその先に繋がっていくという風になると思うんですね。ノーマライゼーションの構築が少しずつできていくんじゃないかなという風に思っています。そうすると、中学校から高等学校へ上がるときに先ほど話があった情報提供を始めとして、連携体制の構築であるとか連携の推進、こういったことがより一層求められて高等学校から中学校、あるいは市の方に日野市で言えばかしのきシートの内容についてももう少し具体的に教えてほしいとかいうようなことが出てくることは想定されます。ですので、もう少し具体的に市としての具体的な面の話に関するビジョンを具体的に持って進めていくことが5年計画ということですので、この5年の間にどんどん進んでいくと思うんですね。今までも話があったように、シートに書いてある内容についても

もう少し精度を挙げていくとかいうことをしていかないといけない、かしのきシートを書く研修なんかも場合によっては必要なのかもしれないなという風に思いました。以上です。

(小貫委員)

その件に関して、日野は、オンラインでつながって2000件とかいう数字が出ているんですが、高校ともオンラインでつながってますね。だから持っていくっていう形になっていて、去年20数件ですよ。20数件の実績はあるので、少なくともニーズは潜在的にかなりあるんですが、その手間をという話で、ぜひ巡回の際に日野市から来ている子に関してはそういうきちょうな資料はすでにあるはずだよっていうことで。

(黒沢委員)

これ日野市だけじゃなくて、どの中学校も個別の支援計画っていうのはそういうお子さんについてはたぶん作って次に繋いでいくはずなんです。だからやっぱりどの区市町村の中学校もそういうことを今後意識していく必要があるだろうなって思います。

(小貫委員)

大学入試につかわれて、特別措置のエビデンスになるので、非常に大きな話だと思います。

(山口委員)

ありがとうございます。他にどうでしょうか、ご意見よろしいでしょうか。4章にも入りましたが、課題についてはここまででよろしいでしょうか。それでは続いて4章の方よろしく願いいたします。

(事務局)

今原案を私どもで作っております、第4章の具体的な施策について追記等した部分についてご説明させていただきます。

まず27から28になります。推進目標1の(2)、エールを中心にした関係機関との連携支援体制の充実になります。こちら2つプラスさせていただきました。仮称子ども包括支援センターの相談機能との連携や役割分担によりいっそうの相談機能の充実を図りますっていうことと、スクールソーシャルワーカーを一中学校区に1名配置することで、小中学校との相談支援・連携強化を図りますっていう文言を追加しております。

続きまして(3)、かしのきシートによる支援情報の共有と対応の充実でございます。こちら一つ追加させていただいております。中学校卒業後の高等学校等への引継ぎの一層の充実を図ります。

続きまして、推進目標2でございます。(1)、教員の理解ならびに指導力向上へ向けた取り組みの推進、こちらを今回重点施策としております。一番下1個目のまるのところに、日野

スタンダードを基本に、全校においてすべての児童・生徒がわかる授業のユニバーサルデザイン科の取り組みを推進します。特に一人一人の学び方の違いを理解し、この後、デジタルの活用を推進しながらというのを入れさせていただきました。主体的な授業の仕方を追求しますということです。

続きまして、30 ページをご覧ください。推進目標 3 でございます。こちらの(1)、特別支援教室・ステップ教室における特別支援教育推進体制の充実でございます。こちらの四角の下 4 つ目のまるになります。各学校において巡回指導教員と学級担任が連携教科をし、入室前・退室後の在席学級での支援の充実を図りますっていう文言です。こちらはステップ教室の在籍期間、原則 1 年っていうところをみての、言葉を入れさせていただきました。

続きまして、31 ページでございます。(2) ニーズに応じた特別支援教室の新設でございます。こちら前回の 5 次のところでは、自閉症情緒障害学級、小学校のですね、こちら設置の内容、環境整備から入って設置までを入れさせていただいておりましたが、今回はおそらく次の学校の選定等の要望が高くなってくるとお思いますので、設置学校の検討という形で□の中小学校は入れさせていただいております。それから小学校における自閉症情緒障害特別支援学級の登下校については、保護者送迎として安全安心な登下校を目指します。

続きまして 32 ページ、(4)、合理的配慮の推進でございます。こちら新たに追加した項目でございます。具体的な施策としては、各小中学校で実施している合理的配慮の事例を集め、積極的に発信していきます。それから、各小中学校からの相談に応じ、合理的配慮に関する検討を実施します。検討結果を踏まえ、合理的配慮に関する調整・提供・見直しをします。それから検討結果は相談があった小中学校だけでなく、全小中学校に発信し、市全体で指針となるような形を目指していきますという具体的な施策を入れております。

続きまして(5)、医療的ケア児への対応でございます。こちらも新たに追加した項目になります。二つございます。保護者の理解と協力のもと、就学前の保育園・幼稚園等と学校との間で、医療的ケア児に関する情報共有が確実かつ円滑にできるような体制を整備し、就学後に円滑な医療的ケアの提供につなげられるようにします。学校が安全・安心に医療的ケア児の受け入れができるようにするため、教育・医療・保健・福祉などの関係機関で編成する会議体を構築しますというものを入れさせていただきました。

(事務局)

続きまして 6、デジタルの活用です。33 ページになります。こちらも新設です。デジタル教科書やデジタル教材の活用を推進し、障害のある児童・生徒への個々に応じた指導を充実させます。また、研修会等で各校の実践を共有します。2 つ目、校内における交流および共同学習が円滑に実施できるよう、デジタルの活用方法について研究・推進します。というものにいたしました。

続きまして、推進目標 4 の(2)、交流及び共同学習の推進のところですよ。34 ページ、一番上の上から 3 つ目になります。児童・生徒が教科等の狙いを達成できるよう、校内における交

流及び共同学習を児童・生徒の実態に応じて日常的に実施できる環境づくりを推進しますという文言を加えました。

続きまして(3)、副籍制度の5つ目です。地域指定校以外の特別支援学級に通う児童・生徒が、地域指定校の通常の学級の児童・生徒と交流および共同学習を行う、日野市は副籍制度の構築を目指しますという文言を入れました。

(事務局)

推進目標の中の変更したところは以上になります。先ほどもご意見いただいておりますので、それらもこの中に盛り込む必要があるものは入れさせていただき、矢印で令和9年度までの内容を入れていますが、そこにつきましても再度点検をさせていただきたいと思いません。

(小貫委員)

第4章について、これまであった文言と、新しい文言とを分けて聞かせていただいて、新しい文言ってすごい具体的に、例えば事例を集めとか新たな会議体を構築するとか日野市版副籍制度の構築とか明確なので計画と次の見直しのところでやりやすいと思うんですけど、それ以外の昔からあるやつ校内委員会を中心とした云々とかは、充実をはかりますみたいな話になっちゃってて、具体的な行動指針にならないなって思いましたので、今回5年間ということでお話あったので、例えば中間できちんと見ましょうっていう時はかなり具体的に何がどうなったかって見えるためには、ここの項目を今までのトーンでない形にがらっと変えて、先ほどたくさんあったご意見は全部ここに盛り込んで行くような形で書かれて先ほど黒沢先生がおっしゃっていたのでそうだなと思ったんですが、この会議体って何期とかやるんですよね。だからこれ第6次ですけど、1期・2期に分かれて1期の段階、たぶん3年くらいのところできちんと見直して後の年間で仕上げますよっていう感じなんですけど、全体の作りの問題も含めて完成みたいな、何かそういった書き方が必要かなって、これは具体的に今回の5年の変更の中で大きく変えてくださったらわかりやすくなるし、今回は検討がしやすくなるのかなと思いました。以上です。

あと一つ、臨床心理士入れていると、公認心理士・臨床心理士みたいに入れていただかないと公認心理士が国家資格になりますので。

(長崎委員)

確認なんですけど、27ページの(1)のエールにおける総合的な相談支援体制の充実の後の令和5年度から継続なんです。そのあとの(2)の連携支援体制の拡充は拡充、次の(3)のかしのきシートの共有の内容の充実が充実なんですけど、この充実とか継続とか拡充っていうそれぞれの意味ってどういう意味になっているのかいまいよくわからないんですけど、この言葉の使い分けってどう整理されているのか教えてほしいんですけど。

(事務局)

1 の総合的な相談支援体制の充実っていうところは今まで充実してきていないわけではなく、いろいろ検討しながらやってきて今の形が出来上がっているところがあったのでそのまま継続っていう形をとっていきます。体制ですとかそういったものはやっていきますよっていう、これを崩さず、これ以下にならないように考えております。(2)の関係機関との連携支援体制の充実については、これは関係機関っていうのも今まで学校とかそういうところであったところが、幼稚園・保育園・学校っていうところだけだったのが、もちろん高校とも連携しなきゃいけないし、放デイとかそういったところとも連携していかなくちゃいけないし、そういったいろいろなところが増えてきますので、そういったものを入れながら関係機関と連携していくことが必要ですのでそういったところも考えた上での拡充って言ったところになってきます。かしのきシートに関しては、始まったばかりの時からやってきて、充実充実って言うことでやっているんですけど、実際のところシステムの更新とかがレベルアップしてできているかっていうとそれができていないところがあると思うんですが、しなくちゃいけないという風にも私たちは考えています。環境の充実というところではありますが、この文言についてももう1回整理する必要があるかなという風に思っています。検討させていただきたいと思います。

(長崎委員)

実際にエールの相談体制の充実っていうことでさっき小貫先生からも話がありましたけど、検査待ちの状態があることとか、校長会でもやっぱりもっと検査の機会を増やしてほしいっていう要望がある中で継続っていう文言になるのはどうなのかなっていうのがあるし、先ほどの2番の子ども包括支援センターが来年建物としてはできるって言う中で、子ども包括との連携体制をちゃんと確立したうえでここからまた何か変わってくるっていうことがあると矢印だけっていうわけにはいかないの、そこら辺の全部5年間矢印ではない方向でもう1回調節する必要があるかなと思います。今ここだけですけど他全部。

(諸星委員)

ステップ教室の在籍期間が変わる中、うちの子も2人ステップ教室に通っていますが、学校とか教室の先生に相談もしています。重点施策といいながらも取り組みとかちょっと具体的ではないかなという気がします。特に充実を図りますというところがありますけど先生との連携とか保護者としては連携とらえてるとは思いますが、さらにそれが必要なのであれば具体的な文言をいれて頂いたほうがステップ教室を利用している方にも内容がよく伝わると思います。

(山口委員)

ありがとうございます。他にありますでしょうか。12 時になってきましたので、次回までに今日いただいたご意見でまた内容が盛り込まれてくるとは思うんですが、どうしてもここだけはっていうことがあれば出して頂ければと思います。

先ほどから日野スタンダードの話が出てますけど、私は現場においても今も日野スタンダードをもとに学校の中で子どもたちが過ごせるように環境を整えたりだとか、授業の工夫をしているところなので、最初のころの日野スタンダードがいろいろ時代に合わせて変えていく必要もあるんですけども、最初に作ったそれっていうのは今も大事なのかなと思いつつも、今現場では煩悶ところですので、日野が今まで構築してきたものも大事にしながら時代に合わせたものを具体的にこの計画の中に取り入れていくって、今回 5 年ということではいろんなことを変える良い機会なのかなってご意見もいただきながら思いましたので、また何か言い足りなかったなっていうところがあれば、また事務局の方にご連絡をいただいて次回の策定委員会に盛り込んでいければと思いますので、よろしく願いいたします。事務局にお返しいたします。

【その他】

(事務局)

本日もお忙しい中、いろいろな意見いただきましてありがとうございます。次回策定委員会は、10月25日(火)、時間は同じく10時から、場所が今回は旭が丘小学校だったんですけど、また1回目に戻りまして、三沢中学校でよろしく願いいたします。また本日の議事録もですね、前回同様メールでお流しいたしますので、確認をお願いできればという風に思っています。次回今回いただいた意見も踏まえて、また案をお出ししたいと思いますが、ご意見などありましたら、メール等で結構ですので、事務局の方におっしゃっていただければと思います。事務局からは以上になります。どうもありがとうございました。